

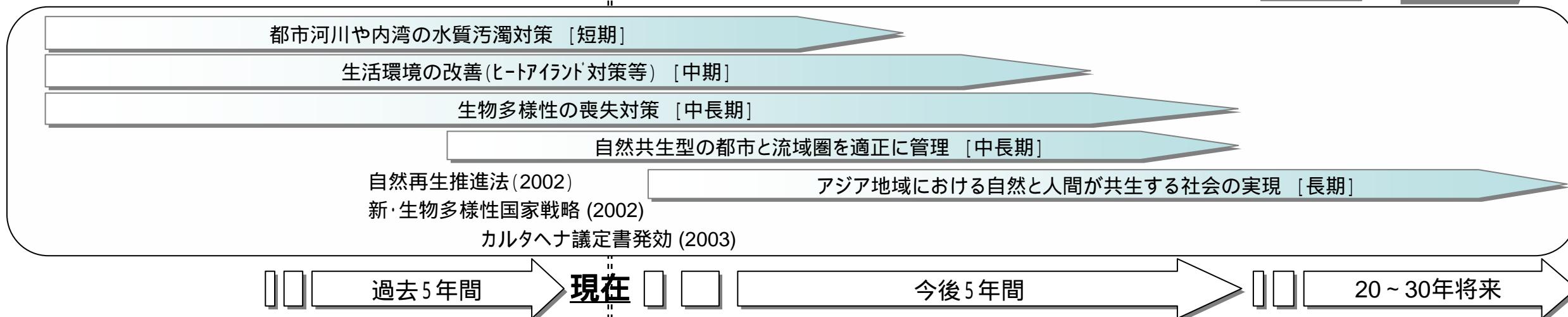
## 重点領域名：自然共生型社会の構築

凡例：

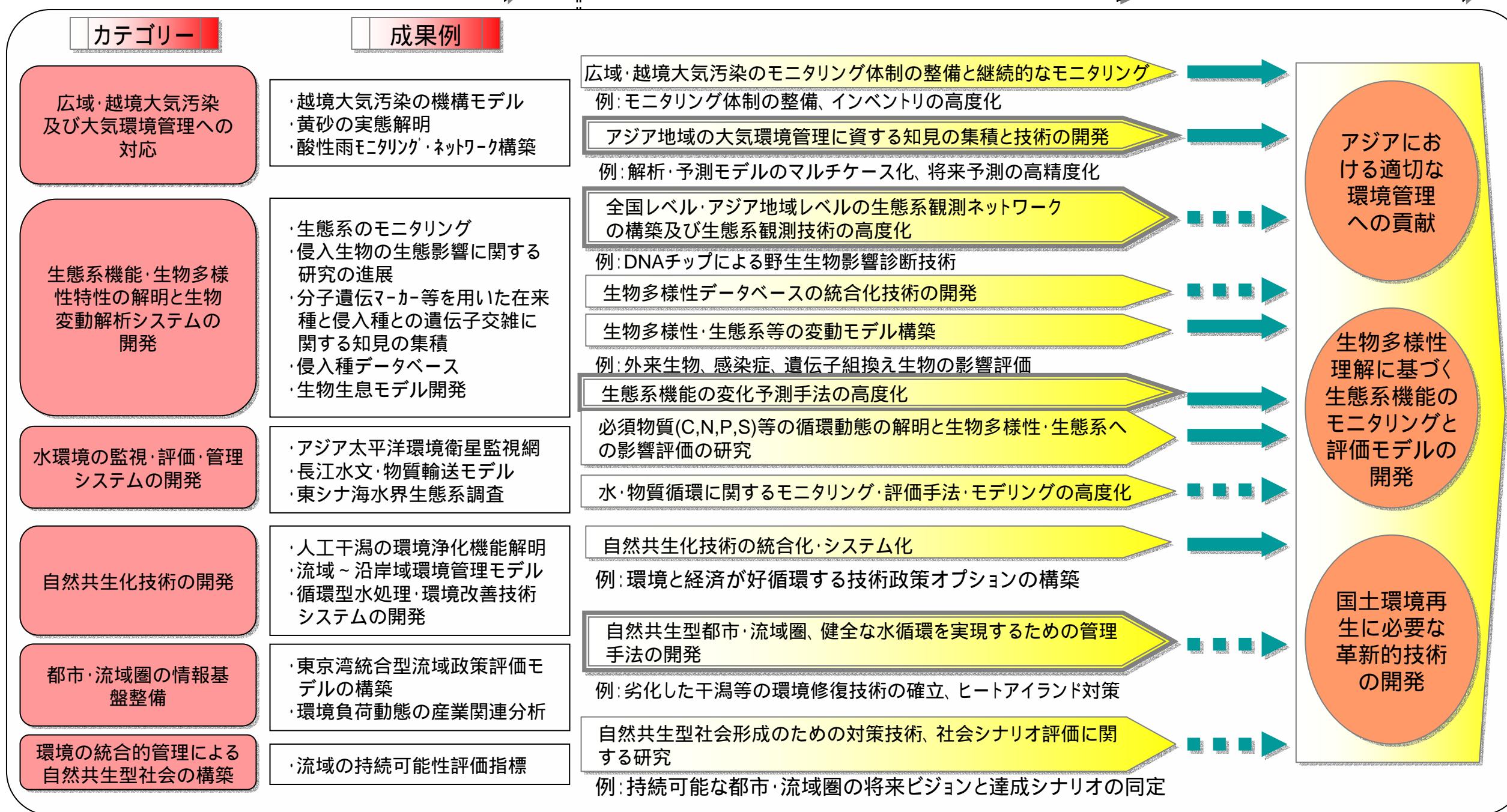
重要  
課題

重点投資  
課題

### 政策目標



### 研究開発の成果／課題／目標



重点領域名：安全・安心で質の高い社会の構築(環境リスクの評価・管理等)

凡例：

重要  
課題

重点投資  
課題

政策目標

早期に解決が必要な環境汚染問題への対応 [短期]

例: アスベストや硫酸ピッチ、NOx・PM等都市大気汚染等

土壌汚染対策法(2002)

負の遺産の解消( POPs適正処理の完了等) [中長期]

化学物質生態影響評価制度導入(2002-3)

PRTRデータ公表開始(2003)

POPs条約発効(2004)

環境リスクの予防的な管理体制の構築と環境リスクの最小化の達成 [中長期]

例: 主要な化学物質の有害性・暴露等に関する知見の充実・共有と環境リスク評価、ライフサイクルにわたる環境リスクの最小化

過去5年間

現在

今後5年間

15~20年将来

研究開発の成果／課題／目標

カテゴリー

成果例

事故的高リスク問題への対応

- ・旧軍由来毒ガス弾への対応
- ・硫酸ピッチ問題への対応等

暴露評価手法の開発  
(モニタリング、モデル開発等)

- ・NTを活用した革新的計測手法の開発に着手
- ・環境試料長期保存に着手
- ・モニタリングネットワーク構築に着手
- ・VOC・SPM等に関する都市大気モデルの開発
- ・ダイオキシン類の暴露評価及び大幅削減の達成
- ・暴露評価手法の高度化の検討に着手

有害性評価手法の開発

- ・基礎的なin silico試験法の開発に着手
- ・化学物質の内分泌かく乱作用等スクリーニング試験法の開発

リスク評価手法の開発

- ・化学物質の生態影響評価制度導入
- ・オゾン層の観測、健康影響に関する知見の集積
- ・ディーゼル排気微粒子の有害性等に関する知見の集積

リスク管理手法の開発

- ・POPs等の排出抑制・処理技術(土壤処理含む)の確立

リスクコミュニケーションのための基盤や手法の整備

- ・化学物質の安全性データの蓄積と提供
- ・基本的なリスクコミュニケーション手法の確立

緊急対応の必要な安全安心確保技術の基盤強化

例: アスベスト、硫酸ピッチ

環境計測・分析技術の高速化、高機能化、実用化と普及

環境試料の長期保存方法の技術的検討

東アジア地域における環境中化学物質のモニタリング・モデル予測

広域・高精度の大気汚染物質暴露モデルの開発

人や動植物への暴露を生じる各過程に応じた暴露量推計手法の整備

簡易迅速な化学物質安全性評価手法の開発

評価手法が未確立の健康影響等の評価手法の開発

例: トキシコゲノミクス、高感受性集団等の評価手法等

水域・陸域生態系のリスク評価手法の開発・高度化

オゾン層破壊及び健康リスクの評価に関する研究

ナノ粒子やナノ材料等の新たな又は同定できていないリスクへの対応とその評価手法開発

BAT/BEPの考え方を踏まえた有害物質処理技術の開発・普及

グローバルな観点からのPOPs・有害な重金属等の管理・環境排出抑制策の技術的検討

製品の全ライフサイクルを通じた化学物質環境リスク低減手法の確立

主要化学物質の有害性・暴露・リスク情報等のデータベース化

リスクコミュニケーション手法の普及、リスクの社会的受容に関する研究

環境リスク  
(生態リスク  
含む)の望ま  
しいレベルへ  
の低減の  
ための管理  
手法の開発・  
改善